

2-18-2 駿府城

今から約 650 年前の室町時代、今川範国が駿河守護職に任ぜられて以降、駿河国は今川氏によって治められた。9 代義元の今川氏全盛の頃、徳川家康は 7 歳から 18 歳までの間、人質として駿府に暮らした。永禄 3 年 (1560) 今川義元が桶狭間で織田信長に討たれた後、今川氏は急速に衰退し、永禄 11 年 (1568) 武田氏により駿府を追われた。

徳川家康は、駿府の武田氏を天正 10 年 (1582) に追放した後、同 13 年 (1585) には駿府城の築城を開始し浜松城から移った。しかし徳川家康は、天正 18 年 (1590) 豊臣秀吉により関東に移封され、豊臣系の中村一氏が駿府城の城主になった。その後、徳川家康は、関ヶ原の戦いに勝利し、慶長 8 年 (1603) に征夷大將軍に任じられ江戸幕府を開いた。慶長 10 年 (1605) に將軍職を息子秀忠に譲り、同 12 年 (1607) には大御所として三たび駿府に入った。この時天正期の城が拡張修築され、駿府城は壮大な新城として生まれ変わった。城には三重の堀が廻り、堀に囲まれた曲輪を内側から「本丸」、「二ノ丸」、「三ノ丸」とする典型的な輪郭式の縄張りとしている。

大御所の城にふさわしく、築城に際して「天下普請」として全国の大名が助役を命じられ、各地から優秀な技術者や多量の資材が集められた。

また、安倍川の堤の改修や、城下町の整備なども行われ、現在の静岡市街地の原形が造られた。

静岡市教育委員会

説明板より